

みどりの周波数

RKK

熊本放送

熊本市山崎町30 TEL 328-5511 (受付案内)

RKK ワイド6

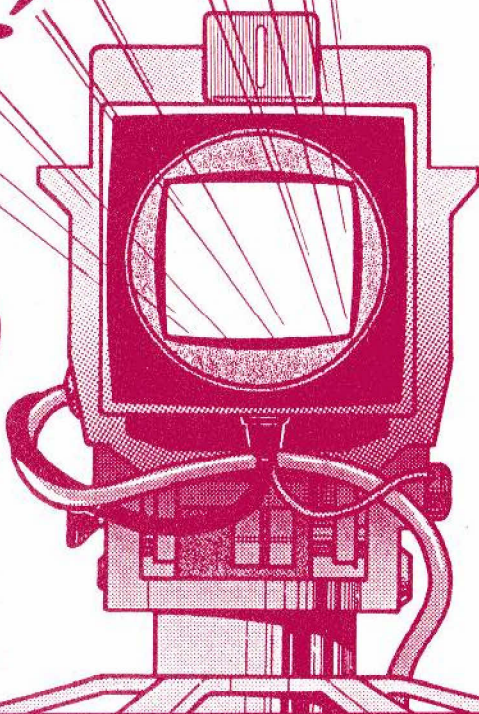
RKK ワイド6

くまもとの
きょうの動きを
ズームアップ!

ワイド6

●夜6時～6時30分
(月～金曜日)

気になる地域の情報。
知っておきたい身近な話題。
くまもとの、きょうの動きを
お届けするホットな30分です。



ベートーヴェン

第九

昭和61年12月27日(土)午後6時30分

熊本県立劇場コンサートホール

主催：熊本県・県民第九の会・県文化協会



熊本県知事
細川 護 熙

年末になりますと、日本各地でベートーヴェンの「第九」が演奏されますが、これは熊本県でも例外ではなく、「県民第九の会」によります「第九」の演奏会は、県立劇場における年末恒例のイベントとしてすっかり定着した感があります。

県立劇場のオープン以来毎年積み重ねられてまいりましたこの「第九」の演奏会も今年で5年目。この間、延べ2,000人近い出演者と、7,000人を超える観客の皆様の参加によって、この演奏会は熊本の音楽界を支える核として大きく成長してまいりました。

世界に誇りうる県立劇場の誕生とともに県民の手によって生まれ、このように育ってまいりました「県民第九の会」が、今年から今迄以上に自立したかたちで演奏会を開かれますことは、県内における他の多くの文化創造団体にとりましても、大いに励みになることと思われます。

国民文化祭というビッグイベントを来年に控えて、その大いなる助走の一步を、県民の手づくりによる「第九」の演奏によって力強く踏み出していただきますことを祈念いたします。



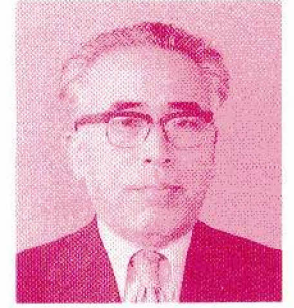
熊本県文化協会会長
岩 下 雄 二

今年は「県民第九の会」の「第九」演奏会が始まって以来第五回目の公演になる。

第五回ともなれば、最初のころとは違って、万事すらすらと運ぶのではないかと思われるが、指揮者と独唱者を選び、交渉し、演奏会までのこまごましたお世話をし、オーケストラ、合唱団の団員に対しても、練習の取りの決定から段取り、指揮者、独唱者、それは間違いなく県外、あるいは海外からお招きせねばならぬのだが、その人たちとの、練習その他の取りの決定、などなど、ということを見ると、実行委員の人達のご苦労は一通りのものでないだろうことが考えられる。それらの数々のご苦労の上で、演奏会のカーテンが揚げられるのである。

演奏者の方々への感謝はいわずもがなであるが、もう定着した観のある演奏会の、最初の指揮棒の一振りまでのお世話方のご心労ご苦労に対して、会がもう五回目になるという結び目において、特にわれわれは心からお礼を申し上げねばならぬと思うのである。

今年の「県民第九」の成功を祈りながら、感謝の念を持って、年末の一夕を名曲の響きに浸り得る喜びを、しみじみ味わいたいと思うのである。



県民第九の会実行委員長
有 馬 俊 一

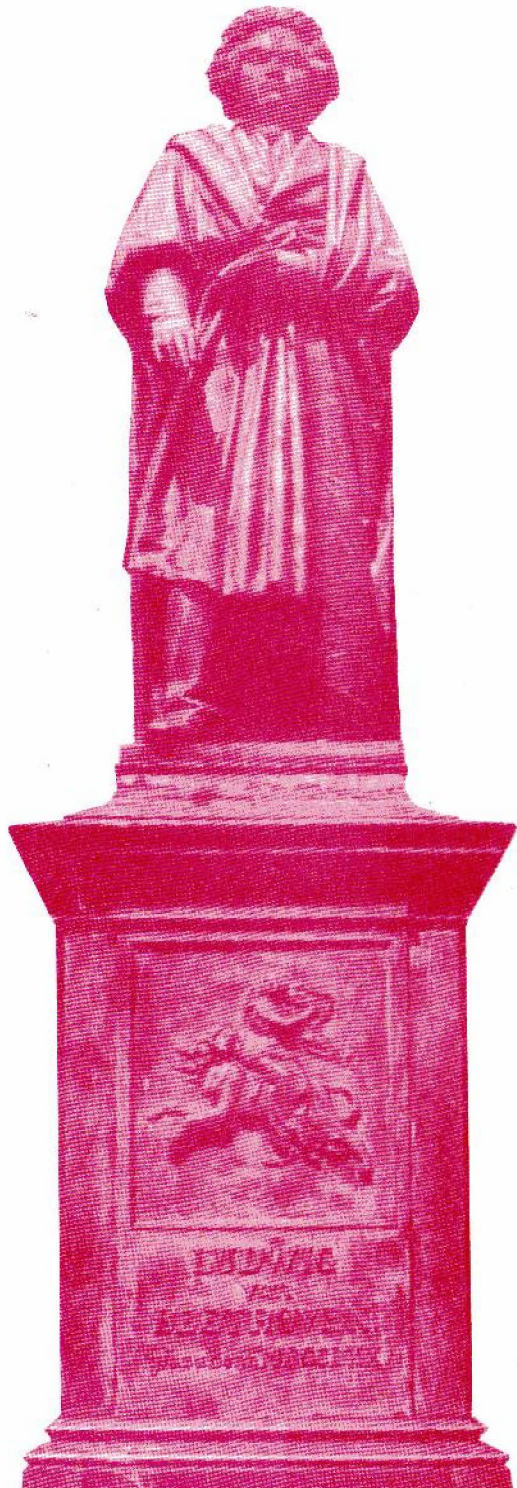
歳末ご多忙な折よくおい出下さいました。

県立劇場の落成を祝って始まった第九演奏会は、今年で第五回を迎え、熊本の年末を飾る恒例行事として定着して参りました。

今回は指揮に荒谷俊治氏を、独唱者に津下美奈子、木村宏子、鈴木寛一、芳野靖夫の四氏、ともに日本一流の方々をお迎えして開催致します。この時期全国各地で開かれる第九演奏会に出演なさる、お忙しい日程をさいて来て頂きました。熊本の第九の評価を高めて下さると思います。オーケストラとコーラスは例年のとおりですが、合唱団は応募者五百名の中から、オーディションによって選ばれた三百名です。ステージに並ぶ人員に限りががありますので、熱烈なご希望をいれて上げられない方があったことを申訳なく思います。

少数の専門家を除いて、出演者の殆んどは音楽のアマチュアです。平常は音楽と無関係な仕事に励んでいる人達が、力を合わせて演奏する、これこそ手作りの第九です。九月以来休日をつぶして練習を重ねて参りました。ベテラン荒谷俊治氏の卓越したご指導で、いくらか水準を高めることが出来たかと自負しております。ご満足頂けない点はお寛容下さいまして、皆様方の温かいご声援をお願い申し上げます。

ベートーヴェンが全人類に贈る「歓びの歌」として作曲した第九、来る年への新しい勇気を与えてくれるこの曲を、今晚はゆっくりご鑑賞下さい。



指 揮 荒 谷 俊 治

独 唱 ソプラノ 津 下 美奈子
メゾソプラノ 木 村 宏 子
テノール 鈴 木 寛 一
バリトン 芳 野 靖 夫

合 唱 県民第九の会合唱団
(合唱指揮・岩代和武)

管弦楽 熊本交響楽団



昭和60年12月25日〈県民第九の会演奏会（指揮＝フランティシェック・ワイナール）〉から



指 揮 荒 谷 俊 治

1930年 広島に生まれる。

1953年 九州大学法学部、1955年同文学部を卒業。
指揮を石丸寛、作曲を高田三郎に師事。

1958年 東京放送合唱団を指揮してデビュー。

1968年～1974年 東京フィルハーモニー交響楽団
指揮者。

1969年 文化庁派遣在外芸術研修員として合衆国
とヨーロッパへ留学、故ジョージ・セル
の下で研究した。

1974年～1980年 名古屋フィルハーモニー交響楽
団常任指揮者。

1966年頃から日本オペラ協会、及び日本音楽集
団などと協力して新しい日本の音楽やオペラを

育てることに情熱を注ぎ、在住する町田市では
1976年以来アマチュアの町田フィルハーモニー交
響楽団を育成している。

今年度文化庁主催「白鳥の湖初演40周年記念公
演」及び「ガウディ讃歌」公演はいづれも好評で
あった。

海外演奏は1970年以来、合衆国、ソ連、フラン
ス、スイス、西ドイツ、東南アジア、エジプト、
中国、南米に及んで居り、昨年からペルー国立交
響楽団、ウルグアイ国営放送交響楽団（SODRE）
に定期的に客演、来年は更にヴェネゼーラ、エク
アドル、スペインからも招かれている。

津下美奈子 (つげ・みなこ)
ソプラノ



東京芸術大学卒業、同大学院修了。
柴田睦陸、木村宏子、森敏孝に師事。
1976年「ふしぎな芝居」(ヘンフェ)のテレサでデビュー。以後、1977年「スザンナの秘密」(ヴォルフ=フェラーリ)のスザンナ、「蝶々婦人」(ブッチーニ)のケイト、「こうもり」(J. シュトラウス)のロザリンダ、1978年に「ボエーム」(ブッチーニ)のミミ、1979年には「四季」のミュージカル「リトルナイト・ミュージック」のセグストローム夫人、バルコ・オペラの「フィガロの結婚」のケルピーノを演ずるなど、レパートリーをひろげる一方、コンサートでもフォーレの「レクイエム」、ヘンデルの「メサイア」などを歌っている。
1981年3月、都響定期演奏会でメンデルスゾーンの「真夏の夜の夢」に出演したあと西独シュトゥットガルトに留学。
1983年3月帰国。以後「海のシンフォニー」(ボン・ウィリアムス)を牧阿佐美バレエ団と協演。オペラでは「死神」(池部晋一郎)、「リゴレット」の小姓、「メリー・ウイダー」のシルヴィアーノ、「椿姫」のアンニーナ、「蝶々夫人」のケイトなどを歌っている。
二期会会員

木村宏子 (きむら・ひろこ)
メゾ・ソプラノ



東京芸術大学卒業。関種子、佐々木成子に師事。
1957年文化放送賞受賞。
1959年「フィガロの結婚」のケルピーノでオペラにデビュー。美しい声と広い音域、豊かな音楽性と表現力を持ち、その後、「椿姫」のフローラ、「ロング・クリスマス・ディナー」(ヒンデミット曲)のジュネヴィエーヴ、「ラインの黄金」のフローシルデ及びウォークリンデ、「蝶々夫人」のスキキ、「こうもり」のオルロフスキー、(ナクソス島のアリアドネ) (R. シュトラウス)の作曲家、「ファウスト」のジーベルなどを歌っている。
他方コンサートの分野でも我が国第一級のメゾ・ソプラノ歌手として高い評価を得ており、1959年から5年間N響の「第九」のソリスソとして連続して出演したのをはじめ、主要交響楽団との協演により、「レクイエム」(モーツァルト・ヴェルディ)、「メサイア」(ヘンデル)、「クリスマスオラトリオ」(バッハ)、「変ホ長調ミサ」(シューベルト)他多くの曲を演奏しており、この分野に於ても不可欠の存在となっている。
また'74年の「毎日ソリスステン」と'78年6月に行ったりサイタルでは、ドイツ歌曲の真髄に迫り絶讃をあびている。1982年「ディドとエネアス」の名演唱によりウィンナーワールド・オペラ賞を受賞。
二期会会員

鈴木寛一 (すずき・かんいち)
テノール



東京芸術大学卒業。
林 達次、長坂好子、ロドルフォ・リッテ、リリー・カラーに師事。
1965年、「ドン・ジョヴァンニ」のオッタヴィオでオペラ界にデビューし注目をあびる。その後「蝶々夫人」、「セヴィリアの理髪師」、「愛の妙薬」、「魔笛」、「こうもり」、「夕鶴」等、主だったオペラの主役をほとんど演じ、その甘いヴェルカント唱法が高く評価されている。
一方、宗教曲の分野でも不可欠な存在で、著名な来日指揮者(マタッチ、スウィートナー、シュタイン、サヴァリッシュ、リリング、小沢征爾)の棒で、各オーケストラと共演。特にバッハの「受難曲」のエヴァンゲリストでは、第一人者とされている。
1977年、ウィーンに留学し研さんを積んでいる。
1976年、1986年と2回ジロー・オペラ賞を受賞。
二期会会員

芳野靖夫 (よしの・やすお)
バリトン



広島大学卒業。東京芸術大学大学院修了。
西独デットモルト音楽大学でG. ヴァイセンボルンに師事し、オラトリオとリートを学ぶ。
1960年モーツァルトのレクイエムでデビュー。以後N響、読響、日フィル、都響、京響ほか主要オーケストラにむかえられ、マルケヴィッチ、ヤンソンス、スロヴァーク、リリング、ワルベルク、ライトナー、スイートナー、サヴァリッシュ、フルネ、ポドー、小沢征爾らの指揮でバロックから現代に及ぶオラトリオや、独唱を含む管弦楽曲のソリストとして協演し、またシューベルトの三大歌曲集をはじめ、ベートーベン、シューマン、ブラームス、R. シュトラウスなどのドイツ歌曲を中心としたリサイタリストとして積極的な演奏活動を行い、現在日本のコンサート・シンガーの第一人者と認められている。
また、甘美で力強い響きのある声、格調の高い音楽性、豊かな表現力をもった演奏は国内はもとより、国外においても極めて高い評価をうけている。
二期会会員

1. トッカータとフーガ 二短調

J. S. バッハ～ストコフスキー編

2. 交響曲第9番二短調「合唱付き」作品125

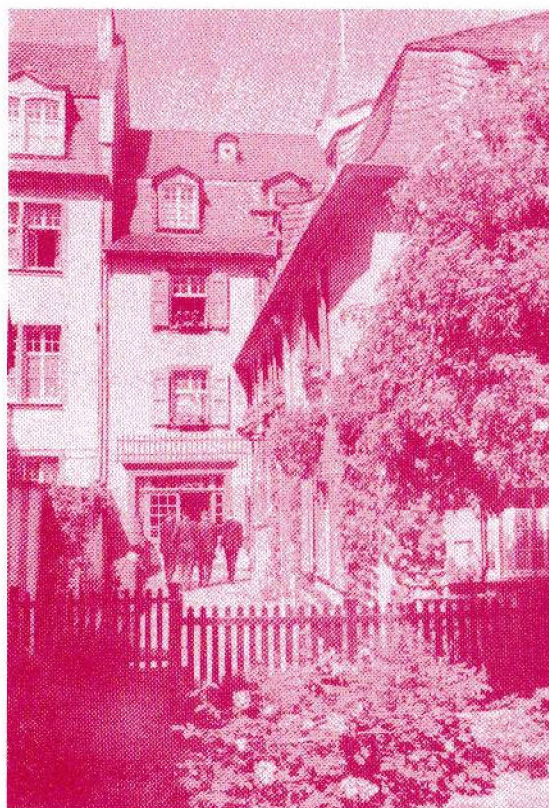
ベートーヴェン

第1楽章 Allegro ma non troppo, un poco
maestoso

第2楽章 Molto vivace

第3楽章 Adagio molto e cantabile

第4楽章 Presto



ベートーヴェンの生家（ボン）

ベートーヴェンは1770年12月16日、ドイツのボンで生まれた。1970年にはベートーヴェンの生誕200年を記念した様々な催しが全世界で行われた。

ボンで行われた“第九”の演奏会には日本からもある大学の合唱団が参加した。その演奏会の模様がラジオで中継されると、ボン中の人々は自分の家のラジオのボリュームを一ぱいに上げると、窓辺に外へ向ってそのラジオを置いたという。

ボン中にベートーヴェンの“第九”が鳴り響く様子を思い浮かべると、実に壮観で感動的であったに違いない。同時に、ボンの人々のベートーヴェンを誇りに思う気持と愛する気持が手にとるようになる。



■シラー＝〈歓喜に寄す〉

対訳＝大宮真琴

O Freunde, nicht diese Töne! Sondern
lasst uns angenehmere anstimmen, und
freudenvollere.

バリトン独唱

おお、友よ、この調べではなく、
さらに快い、さらに歓びに満ちた調べを
ともに歌おう！

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium.
Wir betreten feuer-trunken,
Himmlische, dein Heiligtum!
Deine Zauber binden wieder,
Was die Mode streng geteilt;
Alle Menschen werden Brüder,
Wo dein sanfter Flügel weilt,

バリトン独唱・合唱

- ① 歓びよ、神々のうるわしい輝きよ！
楽園の娘らよ！
われらみな、感動に酔い、
天の高みの神殿に踏み入ろう！
② この世に厳しく引き離された者らを、
神秘なる御身の力は、再び結び合わせる。
御身の優しい翼の憩うところ、
すべての者らは、同朋（はらから）となる。

Wem der grosse Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen,
Mische seinen Jubel ein!
Ja, Wer auch nur eine Seele
Sein nennt auf dem Erdenrund!
Und wer's nie gekonnt der stehle
Weinend such aus diesem Bund!

四重唱・合唱

- ③ 大いなる天の賜物をうけた者らよ、
真空の友情を勝ち得た者らよ、
女の優しい愛を得た者らよ、
歓びの歌を、ともに歌え！
④ しかり、たとえ、ただ一人の魂でさえも
地上の友と呼べる者を持つことができるならば！
だが、それさえ持つことのできなかった者は、
涙しつつ、足音をしのばせ、立ち去るがよい！

Freude trinken alle Wesen
An den Brüsten der Natur;
Alle Guten, alle Bösen
Folgen ihrer Rosenspur.
Küsse gab sie uns und Reben,
Einen Freund. geprüft im Tod;
Wollust ward dem Wurm gegeben,
Und der Cherub steht vor Gott.

四重唱・合唱

- ⑤ すべてこの世に在るものら、
自然の胸から歓びを飲み、
すべての善人も、すべての悪人も、
歓びの薔薇の小径を行く。
⑥ 歓びは、われらに、口づけと葡萄酒と、
そして、死さえも奪い去ることのできぬ友とをあたえ、
虫けらにさえも楽しみがあたえられ、
天使ケルピムは、神の御前に立つ。

Froh, wie seine Sonnen fliegen
Durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet, Brüder, eure Bahn,
Freudig, wie ein Held zum Siegen.

テノール独唱・男声合唱

- ⑦ 歓びよ、歓びよ、神の太陽たちが、
壮大な天の軌道をたのしく飛びかうように、
⑧ 同朋（はらから）よ、おのれの道をすすめ、
歓びに満ちて、英雄が勝利の道をすすむがごとくに。

Seid umschlungen Millionen!
Diesen Kuss der ganzen Welt!
Brüder über'm Sternenzelt
Muss ein lieber Vater wohnen.
Ihr stürzt nieder, Millionen?
Ahnest du den Schöpfer, Welt?
Such'ihn über'm Sternenzelt!
Über Sternen muss er wohnen.

合 唱

- ⑨ たがい手に手を取り合おう、億万の人々よ！
この口づけを、全世界にあたえよう！
同朋（はらから）よ、星のかなたには、
愛する一人の御父が住み給うのだ。
⑩ ひれ伏して祈るか？ 億万の人々よ。
創り主を心に感ずるか？ 世界の民よ。
星空のかなたに、主をさがし求めよう！
星たちのうえに、主は住み給うのだ！

1. トッカータとフーガ 二短調

J. S. バッハ～ストコフスキー編

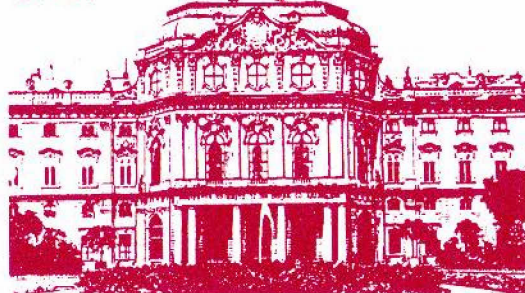
「バッハはバッハ（小川の意味）でなく大海であるべきだ」とベートーヴェンが言ったことは余りにも有名であるが、歴史的にも、それまで別々の地方を流れてきた過去の音楽という川が一つになって大海に注ぐという意味でもバッハは小川ではなく大海にふさわしいといえよう。

バッハの音楽は「諸国民様式の総合」という言葉でもあらわされ、さらにアルベルト・シュヴァイツァーは「バッハは一つの終局である。彼からは何も発しない。いっさいが彼のみをめざして進んできたのである」とも言っている。

ブゾーニのピアノ用編曲や指揮者ストコフスキーによる管弦楽用編曲などによっても広く知られている「トッカータとフーガ二短調」はオルガン曲として作曲されたものである。作曲年代は正確には不明であるが、アルンシュタット時代(1703～07)後期とする説と、ワイマール時代(1708～17)初期とする二説がある。

トッカータとは、元来イタリア語の「触れる toccare」からきたもので、鍵盤音楽に対して用いられる用語となった。多くは、豊かな和音と、即興的な走句をもった自由な形式で作られている。そしてトッカータはフーガを伴うことが多く、とくに、この曲の場合は、トッカータとフーガの内的関連が深く、トッカータ部分に続くフーガの主題は、トッカータ部分の曲頭の素材が使われている。さらにフーガに続いてトッカータ部分が再現されるといった構成になっているため、トッカータとフーガを二つの曲として分けることはできない。

曲は、強烈な下行音型からなる有名なアダージョの導入部をもって開始され、即興的な急速な走句が次々にくりひろげられる。続くフーガの間には明確な区別はなく、16分音符の細かく、ゆれ動くフーガ主題は、トッカータの即興的な趣きを持続しながら、その上に壮大なフーガを築き上げてゆく。さらにトッカータ部分が再現し、吹きすさぶ嵐のように烈しく、そして壮大に全曲が閉じられる。



2. 交響曲第9番 二短調「合唱付き」作品125

ベートーヴェン

ベートーヴェンは、一つ一つが内容と性格を異にする八つの交響曲を書き終えたのち、生涯の最後に、九番目の交響曲に着手した。

1793年に、ボンのフィッシュェニヒは、シラー夫人に手紙で「彼は歓喜をも、しかも各節残らず作曲するでしょう……」と告げていることにより、ベートーヴェンは生地ボンにいたときから、すでにシラーの詩「歓喜に寄す」に作曲したいと思っていたことがわかる。

1822年に、ロンドンのフィルハーモニー協会は、ベートーヴェンに新しい交響曲の作曲を依頼してきた。このことで、今までベートーヴェンの頭の中に、うかんだり、消えたりしていた合唱付きの交響曲の構想が、いっきよに実現することになった。そして1823年から24年にかけて、この巨大な交響曲が完成した。シラーの「歓喜に寄す」に作曲する意図をいだいて、完成するまでに、じつに30数年にわたっていることになる。

この曲は、ベートーヴェンの音楽における技法と精神の最も円熟した時代の作品であって、その内容が雄大な精神と、大胆にして洗練され、全く独創に富んだもので、いく多の目新しい技法がそこに示され、その楽想は当時の常識を全く超えたものであった。四人の独唱者や大規模な合唱団を用いたり、終曲の初めにおいて、前の三つの楽章を回想したりなどはその一例である。

初演は1824年5月7日夜、ウィーンのケルトナートア劇場で行われた。

ベートーヴェンの聴力がかなり衰えていたことは、この曲の初演の際に、指揮者を二人おいたことでもわかる。ベートーヴェンは正指揮者のウムラウフの隣りにあって、実際の演奏とは、くい違ったテンポや表情で空しく空間に弧を描くのみであったという。

「第九」の演奏は練習不足ではあったが、聴衆には偉大な感銘を与え、各楽章の終りには万雷の如き拍手が起った。特に終曲が終ったとき、成功は決定的となった。満堂の聴衆は感激して総立ちとなり喝采を浴びせた。しかし、耳の聞こえないベートーヴェンは聴衆を背にしてボンヤリしていた。見かねたアルトの独唱者ウンガーがかれの袖をひいて聴衆の方を向けたので、かれは初めてこの曲が非常な感銘を与えたことを知り、礼をしたという。聴衆はこの劇的な悲愴な光景に感激し、さらに拍手を続けて、作曲者を五度も答礼のためにステージに出させた。答礼は三回というのが皇帝に対する礼儀なので、警官があわてて聴衆を制したという。

【第一楽章】 Allegro ma non troppo, un poco maestoso

「第九」の規模の雄大さと、劇的な性格は、はやくもこの楽章でも示されている。導入は、天地の混沌を想わせる茫漠とした空5度（第三音がない）の響きで始まる。やがてこの響きのなかから鋭いリズム・モチーフが生起する。このモチーフが圧縮され、第1主題が澎湃（ほうはい）として湧きおこる巨大な塊のごとく聳然（しょうぜん）たる姿をあらわす。ソナタ形式は、いまだかつて、このような主題の出現を経験したことがなかったのである。

第2主題は第1主題と異って、楽しい性格のものである。これにつづく部分も、大体においてこの気分をもち、ときどき第1主題の部分をまじえながら展開部へとつづく。そしてその劇的壮大さは再現部における第1主題への壮烈な導入において、クライマックスに達する。

ワーグナーによると「我々と地上の幸福との間をさえぎる敵意ある暴力の圧迫に対して、喜びをかち得ようと努める魂の戦い、極めて壮大な意識で把握された戦いが、この第一楽章の基礎をなしているように思える」である。

【第二楽章】 Molto vivace

およそベートーヴェンの書いたスケルツォのなかで、最も大規模なものである。鋭い付点リズムを含む、むしろ単純なスケルツォ楽想が、およそ考えうる限りのすべての展開を行う。トリオの主題はあきらかに第一楽章のエピソードから受けつがれたものであり、終楽章の「歓喜の調べ」への橋わたしの役を果すことにもなるのである。

ワーグナーは「激しい喜びが、この第二楽章のはじめのリズムで直ちに我々をとらえる。新しい世界の中に我々は入り、そこで陶酔や麻酔へと駆りたてられるからである……」と言っている。

【第三楽章】 Adagio molto e cantabile

讃歌ふうの主題旋律と希望と浄化を象徴するよ

うな明るく美しい第二主題、この両主題にもとづく自由な変奏形式をとっており、叙情的な旋律、色彩的な和声は、宗教的な敬虔さをもって瞑想的に展開され、情熱も闘争もない平和な幸福感が描き出される。

この交響曲の中での一つの頂点であり、ワーグナーは「なんと清らかに天国のようななだめ方でそれ等の音は反抗と絶望におののいた魂のはげしい促しを、やわらかい憂鬱（ゆううつ）な感覚へと溶けさせて行くことが、思い出がつとに享受したきわめて純粋な幸福への思い出が目ざめるかのように思われる…」と言っている。

【第四楽章】 Presto

第1呈示部＝まず管楽器によるあわただしい楽想が奏される。これに対し低弦がレスタティブでこたえる。それから、前の三つの楽章がそれぞれ回想され、低弦のレスタティブによって否定されていく。そしてついに、一つの歓ばしい旋律が現われる。この主題は初めに低弦によって歌われ、くり返しながら全合奏に至る。

第2呈示部＝この楽章の初めの、あわただしい楽想がもどってくる。やがてバリトン独唱が、力強く歌いはじめ、ついで合唱がそれにつづく、やがて他の独唱も加わり、ひとつのクライマックスをつくる。曲想一転して行進曲となり、テノール独唱が歌いはじめる。そして男声合唱が、力強く歌いくわわる。

再現部＝やがて曲はふたたび「歓喜の調べ」がもどり、合唱が重々しく新しい主題をうたう。やがてこの新しい主題と「歓喜の調べ」とが組合わされて、壮麗な二重フーガがくりひろげられ、全曲中の一つのクライマックスを形づくる。

コーダ＝曲想が一変する。主題旋律の新しい変奏に入り、四人の独唱者と合唱が変化のかぎりをつくして、交互に歌いすすめる。

圧倒的な合唱コーダとなり、合唱の最後は、マエストロとなるが、管弦楽だけが残り、圧倒的な終結を一気に終る。

「県民第九の会」実行委員会

(50音順)

実行委員長	有馬 俊一	蔵岡 隆	三浦 洋一
	江橋 克巳	下田 幸城	本山 洋
	沖津 正巳	黒葛 原 潔	森 真一
	神田 一伸	林 原 隆 治	森 義 臣
	草刈 秀克	藤 枝 昭 俊	山崎 崇 伸

「県民第九の会」合唱団

インスペクター 藤枝昭俊 CHORUS

Soprano

〈ソプラノ〉

荒木美雪
石川知子
石原美香
石原由利
石谷和子
稲岡福子
馬出裕子
太坪美樹
岡田江身
緒方朋子
荻尚子
大無田由美
小加藤恵利
亀丸直美
川崎誠子
菅千佳子
菊川博子
草刈久美
久木田あゆ
工藤紀子
栗原宏子
黒田良子
児玉薫子
小柳とし
小斉藤尚
佐藤久美
佐藤津子
塩村千種
島川綾子
下谷和子
真妹なぎ
武田智子
立花美穂
田中裕子

堤啓子
中嶋和代
中嶋智子
中嶋優美
中田伊子
中野由美
夏野恵子
榎木野和
西嶋ノリ
長谷川まる
馬場圭子
林野真美
平野淑子
福田典子
福永節子
伏水本邦
藤村理恵
堀川美穂
前田深雪
前松美弥
松田綾子
松永国子
松村一美
松本喬子
光富朋子
宮本恵子
宮野保子
矢山佳子
由井啓子
横田味詠子

Alto

〈アルト〉

相川久仁子
赤峰洋好子
荒木誠子

有江朋子
伊佐真理子
石山祐子
磯崎ユウ子
岩下紀子
岩本弘美
牛草恵子
梅本郁子
大久保庸子
小田原純子
小野恵子
小海津力子
加桎来英子
桎木留美
榎川なおみ
菊池美智子
木原浩子
清原幸子
吉草登喜
草西由紀
久保久美
熊野たま
蔵田尚子
栗原裕子
栗原詔子
黒田米幸
国小後藤悦
斉藤文子
斉志柿昌子
志水千代子

野玲子
杉野晃弘子
杉本訪澄子
識訪有三子
識高橋綱子
高竹下綾子
竹田中直子
田丸克子
徳永尾恭子
長野香子
中野志津子
中野孝子
中西井邦子
西村信子
西野口多恵子
野橋口泰子
萩原美也子
馬井裕子
原島千留子
福島くみ子
福福蘭子
福藤ル香子
堀本真美子
本牧正木子
松本節子
松本ゆき子

松山典子
真弓しのぶ
三輪育子
村上山純子
森山敦子
安田昭子
矢賀倫子
山本由美子
弓削光子
吉浦恵美子
米原有美

Tenor

〈テノール〉

芦田秀海
井尾謙介
石原幸之輔
板倉正彦
井上村隆行
今犬童和生
内田森勝幸
江大野昭雄
大緒賢昂
萩鬼木康
小柏山健一
金野勝和
黒田泉曉
小古閑裕規
小斉塚基由
柴田康二
島隅謙洋
仙波昌八
千葉村年男

Bass

〈バス〉

愛路隆要
赤塚貴史
足立恒幸
荒木俊安
一衛甲宜男
江藤純一
大津敬一郎
小川恵三
甲斐清美
鎌田清治
河野清治

神田一伸
清原直行
草刈秀克
栗林孝次郎
小坂塚敦浩
嶋田博紀
田中原泰章
中山一紀
中西井利嗣
西嶋幸生
野口純弘
橋本新十郎

浜崎泰史
林田秀文
春木秀紀
平田卓司
深福幸一郎
福村浩輔
船方愛浩
堀敬信
松尾章弘
味園琢磨
村中山勝宣
山下浩德
山下守人

湯川英敏
余瀬正徳
渡辺重徳



「第九」の初演が行われたケルントナートーア劇場

熊本交響楽団
KUMAMOTO SYMPHONY
ORCHESTRA

〈コンサートマスター〉

山崎 崇伸

〈1stヴァイオリン〉

阿波 和江

岩本 由美子

大宮 伸二

岡田 浩孝

木崎 珠美子

木村 宣子

桑原 敦子

鈴木 伸一

鈴木 洋子

高木 範貢

田野 育美

長尾 治代

長坂 浩子

東 真知子

広瀬 大喜

広瀬 卓和

松山 敬之

森川 崇伸

山崎 永誠

吉永 誠吾

〈2ndヴァイオリン〉

池辺 敏一

岡 純子

清永 健介

草野 正夫

小柳 敦子

柴谷 淳

高木 信雄

田上 るみ子

田中 知子

角田 整保

鶴 和美

野田 和子

平井 隆博

前田 くみ子

松崎 浩二

宮崎 ゆかり

宮本 吉辰

本山 洋

横手 とし子

山本 佳世子

〈ヴィオラ〉

牛島 啓子

緒方 肇

清元 晃

草場 立太郎

国府 慶作

徳永 義治

西 和恵

野尻 晃一

松野 多恵

丸野 真司

吉田 美智子

〈チェロ〉

石垣 博志

片山 玲子

木葉 祐貴

高濱 秀光

津田 一彦

長尾 和治

長坂 輝喜

福永 憲包

本田 義信

三浦 純子

水原 真純

〈コントラバス〉

尾崎 恵

古泉 俊彦

国米 稔

後藤 誠司

坂田 英津子

坂田 拓司

田上 博子

竹内 尚志

歳田 和彦

平川 和秀

〈フルート
ピッコロ〉

緒方 宏明

隅 紀子

後藤 多絵子

柴田 芳江

山口 邦子

〈オーボエ
コールアングレ〉

江原 鋭子

片岡 久哉

辰野 裕昭

中村 美春

宮本 千草

〈クラリネット
バスクラリネット〉

黒木 健次

田中 久美子

溜瀨 孝二

原 敏郎

保田 明子

〈ファゴット
コントラファゴット〉

黒田 孔太郎

小林 太郎

高木 群之

蓮沼 昇

〈ホルン〉

上村 久直

後藤 滋

田畑 博行

黒葛原 潔

安松 真司

山口 亮二

〈トランペット〉

市原 彰

岩井 宏二郎

豊田 恭司

中野 真一郎

堀江 幸司

〈トロンボーン〉

是松 幸二郎

田北 洋康

鍋島 靖夫

早川 真二

〈チューバ〉

府高 隆

〈打楽器〉

金坂 義徳

津森 恵子

西村 浩古

〈ハープ〉

荒尾 ルミ子

伊藤 元子

〈チェレスタ〉

長尾 八千代

Beethoven's Portraits



ベートーヴェン

1818/19年、フェルディナント・シモン原画によるエドワード・アイヘンスの銅版画。